

令和7年度 杉並区施策評価シート 1

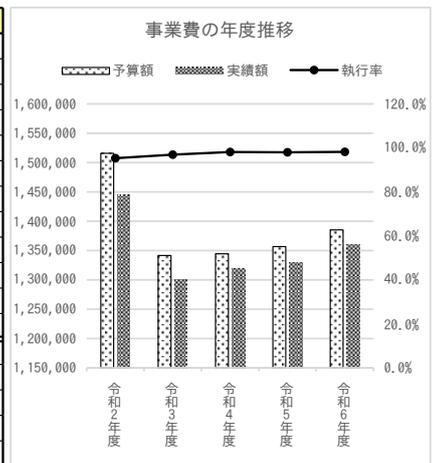
施策	27	多様な文化・芸術の振興と多文化共生・国内外交流の推進
分野	08	文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち
施策担当課	文化・交流課	関係課 区民生活部管理課

○誰もが気軽に文化・芸術に親しめる環境が整い、多様な文化が育まれています。  
 ○国籍や民族等を問わず誰もが安心して生活できる環境が整い、多くの区民がお互いを尊重し合い、違いを認め合う、多文化共生社会への理解を深めています

施策目標  
 ○国内外交流事業を通じて、幅広い世代や異なる文化を持つ人々が積極的に交流することによって、多くの区民が相互理解を深めています。  
 ○平和都市宣言を行った自治体として、戦争の悲惨さと平和の尊さを区民と共有するとともに、次世代を担う子どもたちの中に平和を希求する心が育まれています。

活動指標	指標名	指標説明	単位	令和4年度				令和5年度				令和6年度				令和7年度				目標年度
				計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	目標値	
活動指標	日本フィルハーモニー交響楽団との友好提携事業の実施回数		回	計画	39		38		36		40									
				実績	38		37		37		-									
				達成率	97.4%		97.4%		102.8%		-									
	文化芸術活動助成金事業件数		件	計画	50		25		35		40									
				実績	50		23		33		-									
				達成率	100.0%		92.0%		94.3%		-									
	国際・国内交流事業数		回	計画	35		95		95		120									
				実績	79		117		136		-									
				達成率	225.7%		123.2%		143.2%		-									
成果指標	過去1年間に1回以上、文化・芸術鑑賞をした区民の割合（オンライン配信含む）	区民意向調査による	%	計画	70		71		78.3		78.5							令和12年度		
				実績	78.1		81.1		84.5		-							80%		
				達成率	111.6%		114.2%		107.9%		-									
	分類	区民満足度指標																		
	在住外国人支援事業の参加者数		人	計画					840		880							令和12年度		
				実績	765		1,030		1,188		-							1,100人		
				達成率	-		-		141.4%		-									
	分類	区民満足度指標																		
	国内外交流事業の参加者数		人	計画					5,000		5,100							令和12年度		
				実績	2,449		4,992		5,324		-							6,000人		
				達成率	-		-		106.5%		-									
	分類	区民満足度指標																		
	計画																			
	実績																			
	達成率	-		-		-		-		-		-		-		-				
	分類																			
	計画																			
	実績																			
達成率	-		-		-		-		-		-		-		-					
分類																				

事業費	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			予算額	1,515,782	1,341,597	1,344,461	1,356,777	1,385,196
実績額	1,444,841	1,300,528	1,319,449	1,329,700	1,360,327	-		
執行率	95.3%	96.9%	98.1%	98.0%	98.2%	-		
人件費	千円	予算額	100,476	102,095	123,160	106,210	115,302	143,466
実績額	104,522	111,063	131,996	99,951	144,625	-		
執行率	104.0%	108.8%	107.2%	94.1%	125.4%	-		
総事業費	千円	予算額	1,616,258	1,443,692	1,467,621	1,462,987	1,500,498	1,564,590
(事業費+人件費)	実績額	1,549,363	1,411,591	1,451,445	1,429,651	1,504,952	-	
執行率	95.9%	97.8%	98.9%	97.7%	100.3%	-		
国・都からの補助金等	千円	予算額	14,000	13,000	12,000	0	0	0
実績額	168,711	15,056	34,045	0	0	-		
執行率	1205.1%	115.8%	283.7%	-	-	-		
総事業費伸び率	%	予算額		-10.7%	1.7%	-0.3%	2.6%	4.3%
(予算額、実績額の対前年度比)	実績額			-8.9%	2.8%	-1.5%	5.3%	-
人件費比率	%	予算額	6.2%	7.1%	8.4%	7.3%	7.7%	9.2%
(人件費÷総事業費)	実績額	6.7%	7.9%	9.1%	7.0%	9.6%	-	



特記事項

<p>施策の成果</p>	<p>文化・芸術活動の創造と発信では、日本フィルハーモニー交響楽団との友好提携事業として、区立小中学校への出張音楽教室等を37回実施し計12,004人が鑑賞しました。また、「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」は、「杉並の芸術家展」に洋画家の入江一子氏を加え、展示の充実を図るとともに、「棟方志功」等の作品を鑑賞するオンラインツアーを開催し、115人が参加しました。文化・芸術活動の支援では、区民等が行う文化・芸術活動25件に「文化芸術活動助成金」を支出し、活動を支援するとともに、区民が文化・芸術に親しむ機会を創出しました。また、「若手アーティスト文化芸術活動助成金」を新設し、8件に助成しました。</p> <p>多文化共生・国内外交流の推進では、多文化共生推進懇談会等の意見を踏まえて多文化共生基本方針を策定したほか、杉並区交流会等と連携し、外国人等の児童・生徒を対象とした子ども日本語教室(小・中学生50人)等の事業を実施し、参加者数は1,188人(令和5年度比158人増)となりました。また、交流自治体の観光物産展を49回、写真展を9回実施したほか、ウイロビー市の学生と区立中学生との文通交流や瑞草区を紹介する料理教室など計画を上回る事業を実施し、参加者数は5,324人(令和5年度比332人増)となりました。</p> <p>平和事業の推進では、8月の平和のつどいにおいて、原水爆禁止運動の発端となったビキニ環礁での核実験及び実験により被爆した第五福竜丸に関する内容を中心に、署名運動を紹介するパネル・資料展示を行いました。3月の平和のつどいでは、核兵器のない平和な世界を願い、戦争の悲惨さや平和の尊さをテーマに展示会とコンサートを行いました。ポスターコンクールでは、24校718人の応募がありました。広島平和学習派遣事業では24人の派遣生が広島での式典への参列や、平和施設の見学等を行いました。令和7年は戦後80年の節目の年となるため、同事業に参加した中学生と区内在住の被爆者との対談映像の撮影を行い、令和7年度の平和のつどいに向けて準備を進めました。</p>
--------------	---

<p>課題の分析</p>	<p>文化・芸術分野では、「スギナミ・ウェブ・ミュージアム」において、閲覧数が伸びていないことから、魅力ある展示を企画していくことが課題となっています。また、「文化芸術活動助成金」は、承認件数25件に対し68件の応募があり、新たに開始した「若手アーティスト活動助成金」は、承認件数10件に対し29件の応募がありました。いずれも3倍に近い応募がきており、予算の範囲の中で、質の高い既存事業への支援と、新規事業への支援を、どう両立させていくかが課題となっています。加えて、助成対象事業が中止となった場合、その予算が未執行となり、必要な支援につながらないことも課題となっています。</p> <p>多文化共生分野では、令和7年1月に策定した多文化共生基本方針に基づき、日本語学習機会の確保や行政情報の多言語化等の取組を通して多文化共生を推進していく必要があります。また、交流分野では、各交流自治体を持つ特色を生かした事業を展開し、関係人口の創出や人口減少に伴う担い手不足等の課題解決に取り組んでいく必要があります。</p> <p>平和分野では、戦後80年を迎えようとしている中、第二次世界大戦や被爆地の実相を伝える戦争経験者や被爆者の減少が進み、どのように貴重な証言を残していくかが、大きな課題になっています。こうした中、「語り継ぐこと」を中心とした事業展開は限界に近づいており、「語り継ぐこと」を担保しつつ、「平和をどう創っていくか」へシフトする必要性があります。従来の平和事業の内容を尊重しつつ、現在の世界の情勢を踏まえた平和事業の展開を検討します。</p>
--------------	---

<p>改善・見直しの方向 中長期</p>	<p>今後の施策の方向性 ※第2段階評価時に入力</p> <p>今後の進め方 ※第2段階評価時に入力</p>
--------------------------	--

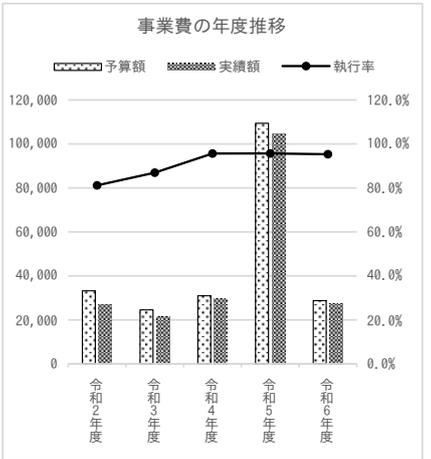
令和7年度 杉並区施策評価シート 1

施策	28	次世代への歴史・文化の継承
分野	08	文化を育み継承し、スポーツに親しむことのできるまち
施策担当課	生涯学習推進課	関係課 文化・交流課、総務課

施策目標	○伝統的な歴史や文化が継承され、区民が地域に対する魅力に誇りを持っています。 ○区民の愛郷心が醸成されるとともに、文化都市としてのイメージが根付き、区内外に定着しています。 ○杉並区の歴史的資料がデジタル化等により適切に保存されて、いつでも、誰でも、どこでも見ることができ、また活用できる体制が整っています。
------	--

活動指標	指標名	指標説明	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標年度		
					計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	目標値
活動指標	杉並区文化財指定登録総件数	杉並区文化財を指定登録した件数	件	計画	151	152	153	153	令和12年度		
				実績	151	152	152	-			
				達成率	100.0%	100.0%	99.3%	-			
	企画展・講座・教室等事業実施回数		回	計画	50	40	40	40			
				実績	40	35	35	-			
				達成率	80.0%	87.5%	87.5%	-			
				計画							
				実績				-			
				達成率	-	-	-	-			
	成果指標	文化財等を活用した事業への参加者数	郷土博物館の来館者数及び出前型事業の来場者数+荻外荘の来館者数+郷土芸能大会の来場者数+古典の日本来場者数	人	計画			38,687		57,703	令和12年度
					実績	31,586	31,861	57,302		62,785人	
					達成率	-	-	148.1%		-	
文化財等を活用したオンライン動画等の視聴回数		YouTube動画の視聴回数+デジタルアーカイブ資料の閲覧件数	回	計画			137,200	137,500	令和12年度		
				実績	136,976	80,552	84,986	139,000回			
				達成率	-	-	61.9%	-			
分類 区民満足度指標				計画							
				実績				-			
				達成率	-	-	-	-			
分類				計画							
				実績				-			
				達成率	-	-	-	-			
分類			計画								
			実績				-				
			達成率	-	-	-	-				
分類			計画								
			実績				-				
			達成率	-	-	-	-				
分類			計画								
			実績				-				
			達成率	-	-	-	-				

施策コスト	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
			事業費	千円	33,224	24,575	30,974	109,382
事業費	千円	実績額	26,963	21,362	29,622	104,640	27,400	-
		執行率	81.2%	86.9%	95.6%	95.7%	95.3%	-
		予算額	95,984	99,528	101,801	105,078	117,577	140,487
人件費	千円	実績額	118,724	100,752	100,008	114,965	132,365	-
		執行率	123.7%	101.2%	98.2%	109.4%	112.6%	-
		予算額	129,208	124,103	132,775	214,460	146,326	179,595
総事業費 (事業費+人件費)	千円	実績額	145,687	122,114	129,630	219,605	159,765	-
		執行率	112.8%	98.4%	97.6%	102.4%	109.2%	-
		予算額	6,636	3,000	2,700	2,700	3,000	10,796
国・都からの補助金等	千円	実績額	5,796	2,550	814	860	2,045	-
		執行率	87.3%	85.0%	30.1%	31.9%	68.2%	-
		予算額	-	-	-	-	-	-
総事業費伸び率 (予算額、実績額の対前年度比)	%	予算額	-	-4.0%	7.0%	61.5%	-31.8%	22.7%
		実績額	-	-16.2%	6.2%	69.4%	-27.2%	-
人件費比率 (人件費÷総事業費)	%	予算額	74.3%	80.2%	76.7%	49.0%	80.4%	78.2%
		実績額	81.5%	82.5%	77.1%	52.4%	82.8%	-



**特記事項**

令和6年度は、令和5年度の文化財案内標示板及び文化財標柱139基の建替えを一斉に行ったために増額となっていた経費分が減少し、事業費は前年に比較し約33%減となっています。  
 令和6年度の杉並区文化財の指定は、平成10年度に指定した「森泰樹氏旧横倉家文書」への新たな資料の追加指定のため、活動指標の「杉並区文化財指定登録総件数」の実績値は増となっていません。

<p>施策の成果</p>	<p>国史跡「荻外荘」の復原・整備完成を記念し、公益財団法人陽明文庫の全面協力を得て荻外荘にあった近代日本画や陽明文庫所蔵の名品を展示する特別展のほか、荻外荘や近衛家に関連する企画展を開催しました。  また、昭和戦前期に首相を務めた近衛文麿が着用した大礼服の複製品を製作する際、記録映像を作成し、同大礼服とともに荻外荘で公開しました。さらに荻外荘を紹介する冊子「TEKIGAISSO」を刊行し、国史跡「荻外荘」を区の内外にアピールしました。  このほか、古文書講座、親子博物館教室、子ども博物館教室や区民参加型展示を引き続き実施するとともに、埋蔵文化財調査の調査状況を紹介する動画の制作と公開、「郷土芸能大会」や小中学生を対象とした古典に親しむ事業「古典の日」の実施など、区民が歴史・文化に親しむ機会の充実に努めました。  荻外荘の復原・整備完成を記念した展示をはじめとした様々な取組により、文化財等を活用した事業への参加者数は、前年度を大幅に上回る実績となりました。</p>
--------------	--

<p>課題の分析</p>	<p>郷土博物館内及び館外に設置する取蔵庫、発掘調査で出土した遺物の保管場所は、いずれも飽和状態となっていますが、区指定・登録文化財の所有者交代等に伴う寄贈・寄託資料及び埋蔵文化財の発掘調査により出土する遺物は増加しています。取蔵庫及び保管場所として活用できる区の施設に限られ、各資料等に適切な方法で安定的に保存することが難しくなっていることから、資料の点検・整理を計画的に進めた上で、取蔵庫及び保管場所を確保することが必要です。  また、これらの資料については、いつでも誰でもどこでも活用できるように、デジタルアーカイブの作成と公開を進めていく必要があります。今後、区が保有する膨大な資料の調査・研究を通して、内容の充実を図り魅力あるコンテンツとして区内外に発信できる体制を整えていくことと、刊行物の公開に当たっては、著作権者の許諾等について解決を図ることが課題となっています。</p>
--------------	--

<p>改善・見直しの方向 中長期</p>	<p>今後の施策の方向性</p>	<p>※第2段階評価時に入力</p>
	<p>今後の進め方</p>	<p>※第2段階評価時に入力</p>



<p>施策の成果</p>	<p>「スポーツ・運動に親しむことができる場と機会の充実」については、施設の指定管理者や関係団体と連携しながら、スポーツをする機会の少ない区民向けの教室・プログラム等を実施しました。令和7年5月に実施した区民意向調査では、「成人の週1回以上のスポーツ・運動の実施率」は57.1%、「健康であると感じている区民の割合」は86.2%となり、それぞれ成果指標の目標値63%、87%を下回りました。</p> <p>「障害者スポーツの推進」については、ユニバーサルタイムを荻窪体育館12回、上井草スポーツセンター8回の計20回開催し、延べ426人が参加しました。これらの取組や各指定管理者が実施した障害者向けのスポーツ教室等の実施により、障害者スポーツの事業の参加者数は1,687人となり、成果指標の目標値1,300人を大きく上回りました。</p> <p>「体育施設の整備・充実」については、下高井戸おおぞら公園多目的スポーツコートの新管理棟をはじめとした区立体育施設の整備・充実を計画的に進め、体育施設の利用者は1,456,993人（令和5年度比17,687人の増）となるなど、誰もがスポーツ・運動に親しむことのできる環境づくりに取り組みました。</p>
--------------	---

<p>課題の分析</p>	<p>体育施設の利用者が増加した一方、「成人の週1回以上のスポーツ・運動の実施率」は、令和5年度の実績値と同程度となりました。また、「健康であると感じている区民の割合」は、直近3年間横ばい傾向だったことに対して、約3%高くなり、僅かながら区民の健康意識が高まりつつあります。</p> <p>「障害者スポーツの推進」については、ユニバーサルタイムは、荻窪体育館では月1回の開催が定着し、指定管理者と連携した円滑な運営のあり方を確立する段階にきています。上井草スポーツセンターは、立ち上げから3年目となり、運動場での実施についてはノウハウが蓄積されつつありますが、令和6年度から始めた体育館での実施については安定的な運営スタイルを確立する必要があります。また、永福体育館での障害者スポーツネットワークとユニバーサルタイムの立ち上げに当たっては、ネットワークのメンバーや、近隣の特別支援学校へのアンケート調査などを踏まえて、当事者のニーズを反映したプログラムを実施する必要があります。また、今後のユニバーサルタイムの継続的な実施に当たっては、現場を支えるサポーターの養成に加え、現在は一部業務を委託している指定管理者の役割の拡充について検討するなど、実施体制の充実に向けて取り組む必要があります。</p>
--------------	---

<p>改善・見直しの方向 中長期</p>	<p>今後の施策の方向性</p>	<p>※第2段階評価時に入力</p>
	<p>今後の進め方</p>	<p>※第2段階評価時に入力</p>